

表 油類含有排水の処理方法

油類の状態		処理方法				
		自然浮上(重力式)分離法	浮遊分離法	凝集沈殿法	吸着法	生物処理法
遊離状の油		○	○	○	○	△
乳濁状態の油		×	○	○	△	△
固形の油脂		○	○	○	×	△
備考	特徴	前処理的な方法として用いる	油の状態に関係なく処理が可能である	SSが共存するとき、又は重質油の場合に処理効果がある	低濃度の油の処理に適する	低濃度の油の処理に適する
	問題点	他の方法に比べて処理濃度に限界がある	維持管理が煩雑である	汚泥の発生が多いため、前処理し、遊離状の油を除去する必要がある	定期的に吸着材の交換及び目詰まりに注意が必要である	汚泥性状の沈降性等に影響を与える可能性がある

注 ○:適 △:低濃度の油類の場合に適 ×:不適

出典:公益財団法人日本下水道事協会発行 『事業場排水指導指針と解説』より